特集Ⅰ．第４回大東文化大学看護学会総会

国際的視野で看護を考える
-留学生への看護教育の実践について-

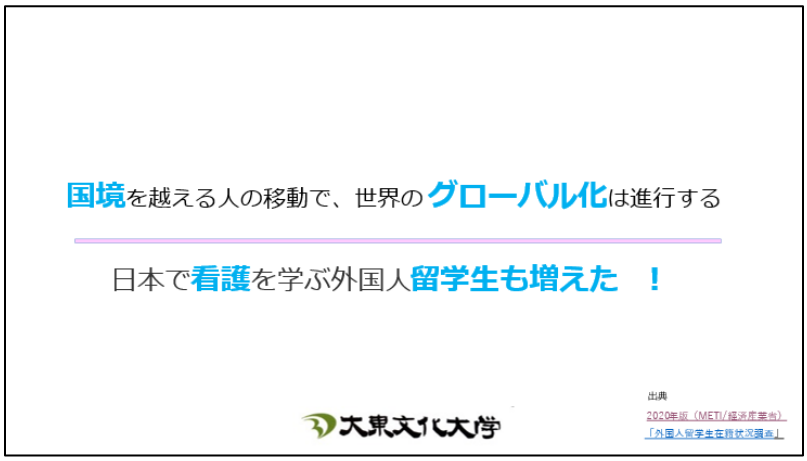
王　麗華
大東文化大学　スポーツ・健康科学部　看護学科

キーワード：異文化看護，多文化共生，看護教育，国際性

Ⅰ．はじめに

世界経済のグローバル化の進展や，交通手段の発達に伴い，国境を越えた人との交流が発展してきた．また，インターネットやAIの普及により，さらにヒト・モノ・カネ・情報の交流は容易に国境を超える時代となっている．

現在，医療分野においても，経済産業省により，外国人患者の受け入れの「インバウンド」や日本の医療サービスシステムを外国に輸出する「アウトバウンド」などのグローバリゼーションが進展している[1)]．出入国在留管理庁によると，2020年12月末の在留外国人数は288万7,116人となり，日本の人口の約2%を占める[2)]．留学生についても，日本の大学（大学院を含む），短期大学，高等専門学校，専修学校などにおける外国人留学生の在籍者数は2010年の141,774人から2020年の279,597人に増加し続けている[3)]．大学で保健分野を学んでいる留学生は2019年に5,466人であり，2014年の3,168人より増えている[4)]．国境を越えた交流が盛んである現在は，医療保健の学士教育においても，国際化が進んでいる．



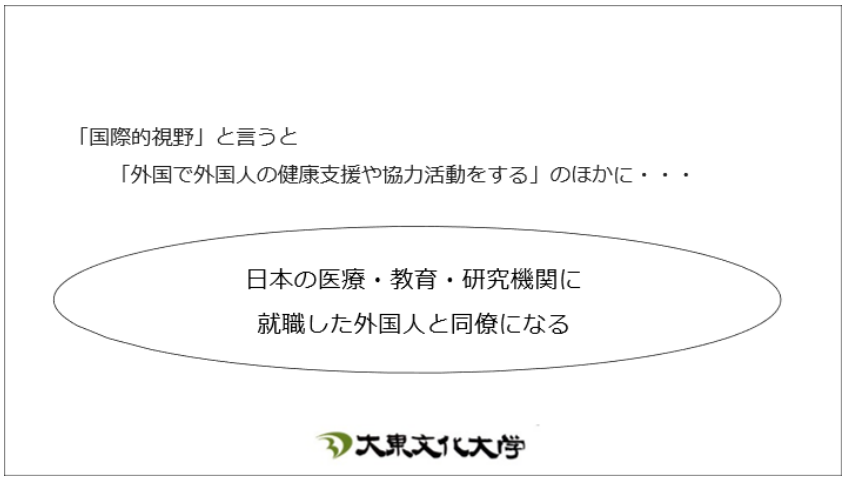
Ⅱ．医療現場の国際化

新型肺炎コロナウイルス感染症の蔓延のなか，人々の健康を護るため，世界中の看護師が医療の最前線で奮闘している．各国の看護は人の健康を護るという大きな目標のために，国や地域の実情に合わせた看護教育と看護実践をしている．日本においては，日本看護協会『看護者の倫理綱領』の条文 2 において，【看護者は，国籍，人種・民族，宗教，信条，年齢，性別及び性的指向，社会的地位，経済的状態，ライフスタイル，健康問題の性質にかかわらず，対象となる人々に平等に看護を提供する】と示している．そのため，対象となる人々に平等に看護を提供する必要があり，看護対象者の生活，価値観などを理解することが求められる．

また，国際連合教育科学文化機関(UNESCO)と経済協力開発機構(OECD)は，質の高い教育を提供する国際的な枠組みの構築や，学生等の保護のために各国の関係者が取り組むべき事項など，2005 年にガイドラインを策定した．これに合わせて文部科学省では，人材，社会，経済および文化面の要請に応えた，質の高い高等教育が国境を越えて展開されることを促すことを目的として，UNESCO/OECD の『国境を越えて提供される高等教育の質保証に関するガイドライン』を施策している[5)]．

日本は超高齢社会を迎え，疾病構造の変化等の保健医療を取り巻く日本の社会環境の変化に伴い，人々の医療と看護に対するニーズは多様化している．こ

のような日本社会の経済，教育，医療において，在日外国人の増加に伴い，医療現場においても外国人医療従事者が日本人患者へ医療サービスを提供することや，日本人医療従事者が外国人患者への医療サービスを提供することも多くみられるようになってきた．国際化が進み留学生，外国人看護師，外国人患者の増加している現在，日本の医療現場においても，グローバリゼーションヘルスの視点を持つことが重要になっている．これらのことを踏まえると,「国際的視野で看護を考える」ことは,看護職として日常的に必要であると考えられる．



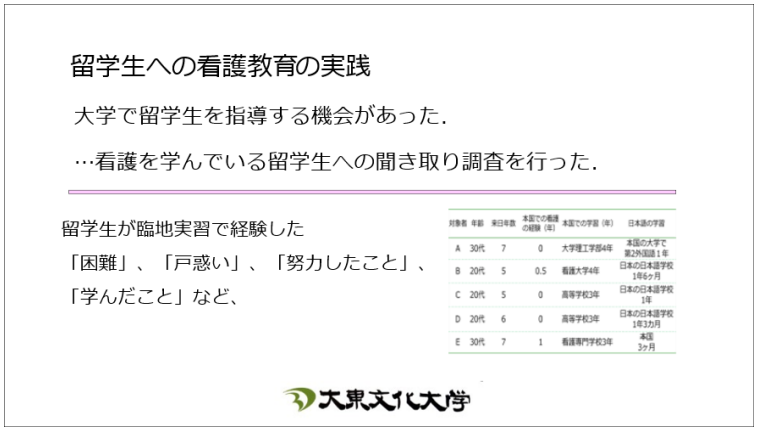
Ⅲ．留学生と臨地看護実習

看護職の国境を越えた移動が盛んになっている現在，看護教育を大学で行う国も，世界全体の傾向となっている．このような環境の中で 2008 年に経済連携協定（EPA）に基づき，日本では EPA による外国人看護師の参入により，看護分野での外国人看護人材の受け入れが加速している．一方，日本の看護大学で看護学を学び，看護師免許を取得する留学生も年々増加している．

臨地看護実習は，看護教育の大きな特徴の一つである．文部科学省は臨地看護実習について,「看護職者が行う実践の中に学生が身を置き，看護職者の立場でケアを行うことである．この学習過程では，学内で学んだ知識・技術・態度の統合を図りつつ，看護方法を習得する」と説明している [6]．また，この臨地看護実習において,「看護実践に不可欠な援助的人間関係形成能力や専門職者

としての役割や責務を果たす能力は，看護サービスを受ける対象者と相対し，緊張しながら学生自ら看護行為を行うという過程で育まれていく」[6]としている．

そこで，日本の大学で看護養成課程における外国人留学生の臨地看護実習の戸惑いなどを明らかにし，効果的な臨地看護実習の指導につなげたいと考え，実習経験がある留学生を対象に聞き取り調査を行った．



対象者	年齢	来日年数	本国での看護の経験（年）	本国での学歴（年）	日本語の学習
A	30代	7	0	大学理工学部4年	本国の大学で第2外国語1年
B	20代	5	0.5	看護大学4年	日本の日本語学校1年6ヶ月
C	20代	5	0	高等学校3年	日本の日本語学校1年
D	20代	6	0	高等学校3年	日本の日本語学校1年3ヵ月
E	30代	7	1	看護専門学校3年	本国3ヶ月

調査を通して，留学生の看護臨地実習に臨む姿勢として，言葉の壁をカバーするため，ジェスチャーなど非言語コミュニケーションを活かして，受け持ち対象とコミュニケーションをとっていた．伝えたいという気持ちを持って対象者と向き合う姿勢が強く感じられた．一方，日々のカンファレンスや実習記録には，特に実習の最初に負担感を感じていた．しかし，日本人実習生によるサポートなど実習メンバーの協力を得ていた．さらに，実習施設側の指導看護師や教員の指導を受け，スムーズに看護臨地実習を進めることができた．

留学生は日本人学生･大学の教員･実習施設側の指導看護師の連携のなかで，実習目標の達成を目指す．このような長期にわたる看護臨地実習は，大学での看護教育において留学生本人だけでなく，日本人学生，教員，臨地実習指導看護師に対しても「国際的視野で看護を考える」機会を増やしていると考える．

「国際的視野で看護を考える」際には，我々は生活している世界全体における健康，生活習慣・文化，医療の問題から検討する必要がある．さまざまな地

域で生活する人々は異なる生活習慣，文化を持っている．また，人々の健康に対する認識も異なっている．日本とは異なる国民文化を持った留学生たちは，異なる文化に直面して戸惑う場面もあるが，それらを理解することはケアの第一歩である．そのため，留学生は看護臨地実習の目標を目指すほかに，日本の看護対象者の生活習慣，文化，健康に対する認識を体験する場として臨地実習に臨むことも重要である．

Ⅳ．まとめ

留学生は授業で普遍的な知識や技術を学び理解するだけでなく，多文化体験も大切な学修である．また，言語，文化，習慣や価値観が異なる人々が共に働き生活するという多文化共生社会の進展に伴って，看護教育は「文化的看護」を理解し，実践できる能力を備える看護職を育成することが重要であると考える．

文献

1）経済産業省：医療の国際展開とは，
https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/healthcare/iryou/about/index.html.（検索日：2021 年 12 月 16 日）

2）出入国在留管理庁：令和 2 年末現在における在留外国人数について，
https://www.moj.go.jp/isa/publications/press/13_00014.html.（検索日：2021 年 12 月 16 日）

3）文部科学省：「外国人留学生在籍状況調査」及び「日本人の海外留学者数」等について，
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/ryugaku/1412692.htm.（検索日：2021 年 12 月 16 日）

4）日本学生支援機構：2019（令和元）年度外国人留学生在籍状況調査結果，
https://www.studyinjapan.go.jp/ja/_mt/2020/08/date2019z.pdf.（検索日：2021 年 12 月 16 日）

5) 文部科学省：ユネスコ/OECD『国境を越えて提供される高等教育の質保証に関するガイドライン』(仮訳),
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/shitu/06032412/002.htm.（検索日：2021 年 12 月 16 日）

6) 文部科学省：看護教育の在り方に関する検討会報告，Ⅲ．臨床実習指導体制と新卒者の支援,
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/018/gaiyou/020401c.htm.（検索日：2021 年 12 月 16 日）

7)王麗華，磯山優（2019）：日本の看護大学で学ぶ外国人留学生の授業から実習への学習段階の移行に関する研究―異文化への適応過程の視点から―，大東文化大学紀要（自然科学），58，21-34